

6 八幡西区



八幡西区は、市の南西部に位置し、古くは江戸時代の長崎街道の頃より、交通の要衝として栄えてきました。全体的に平坦な地形で、良好な住環境が広く形成されており、市内において最も人口の多い区となっています。

日本を代表する有名企業が立地するとともに、中心市街地である黒崎地区や学園都市の折尾地区など、それぞれの地域ごとに特色あるまちづくりが進められています。

(1) 地域資源・ポテンシャル

①産業

先端ロボットや精密金型、素材、半導体材料などの分野において、世界をリードする企業が立地するとともに、それを支える関連企業群や金融機関、宿泊施設などが集積しています。近年は、物流需要の高まりなどから、九州縦貫自動車道の八幡インターチェンジがある金剛地区に物流拠点としての注目が集まっています。

②都市機能・住環境

交通の要衝として充実した道路網に加え、黒崎駅や折尾駅を中心に、鉄道やバスによる広域的な公共交通ネットワークが形成されています。

黒崎地区では、黒崎駅周辺に区役所をはじめとする公共的機関や文化交流施設、医療施設などがコンパクトに集積しています。商業施設の立地とあまって、近年はマンションの建設が進み、まちなかの居住人口が増加しています。現在、交通アクセスの更なる向上に向け、国道3号黒崎バイパスの整備を進めています。

折尾地区では、大学や短期大学、高校などの教育機関が集積し、西日本有数の学園都市を形成しています。現在、折尾地区総合整備事業により、学園都市の玄関口に心ざわしい地域拠点づくりが進んでいます。

陣原駅周辺や永犬丸・三ヶ森地区、八幡南地区では、鉄道駅周辺の利便性や生活利便施設の充実に加え、瀬板の森公園、金山川、遠賀川などの自然が身近にあり、暮らしやすい住宅地が広がっています。



③観光・歴史・文化

江戸時代には、長崎街道における黒崎宿と木屋瀬宿という2つの栄えた宿場町がありました。現在も、曲里の松並木や木屋瀬宿跡の古いまちなみなどが残されており、当時の風情を感じることができます。



また、400年前から行われているとされる黒崎祇園山笠などの多彩な祭りが地域に継承されています。

そのほか、石炭輸送に利用された堀川の流域には、水門「寿命(じめ)の唐戸」などの文化財が残っています。

④自然・食



藤の名所である吉祥寺、ホタルの飛翔地の黒川、地域の子もたちが水と触れ合える笹尾川水辺の楽校、森林浴のできる畑貯水池など、豊かな自然を身近に楽しむことができます。

また、遠賀川流域の水田地帯では、福岡県内で作られる米・麦の種子や酒造好適米など、高品質な農産物が作られています。

(2) まちづくりの方向性

○産業の振興や雇用の創出により、活力あるまちをつくります。また、長崎街道などの歴史や伝統的な祭りの保存継承により、シビックプライドの醸成を図るとともに、豊かな自然や公園、貯水池などを生かした魅力のあるまちづくりを推進します。

○黒崎地区では、都市型住宅の集積促進により居住人口の増加を図るとともに、多世代が交わり支え合うまちをつくります。また、個性的、特徴的な店舗の出店促進や賑わいづくりなどにより、歩いて楽しいまちなかを創出します。

○折尾地区では、学園都市の特性と充実した都市機能を生かし、学生や若者、住民、駅利用者によるにぎわいづくり活動や民間開発を促進することにより、市内外の人が住みたくなくなるような魅力的なまちをつくります。

○筑豊電鉄沿線などの住宅地において、高い交通利便性や充実した生活利便施設、四季を彩る自然などを生かし、誰もが住みたくなくなる住環境ブランドエリアの形成を図ります。

(3) 参考とした市民の皆様のご意見

- ・黒崎は交通が便利で、住むには素晴らしい場所。医療や介護、福祉の事業所が充実し、そこで多世代の交流が活発に行われている。
- ・折尾は再開発で住宅地としてのポテンシャルや価値が上がっていくのではないかと。一方で学生が多いまちなのに、学生が楽しめるような環境が整っていない。
- ・八幡西区は郷土愛が強く、まちをどうにかしないといけないと強く思う人が多い。
- ・祭りなどを通じて、子どもたちに自分のまちのことを好きだと言ってもらえるようにしたい。

7 戸畑区

戸畑区は、市内で最も面積が小さく、早くから都市基盤が整備されたコンパクトなまちです。北九州市のほぼ中央に位置し、区域の北側には工場が立ち並び、南側には住宅地が広がっています。

教育や文化、福祉などの都市機能が充実しており、「文教のまち」として、落ち着いた雰囲気のマちなみが形成されています。



(1) 地域資源・ポテンシャル

①産業

臨海部には広大な製鉄所を有する工場群が形成されており、これらの企業や区内の大学などでは、宇宙や DX、GX、半導体などに関する活動に取り組んでおり、未来産業の発展、社会課題の解決、バックアップ機能の強化に資する基盤が整っています。

②都市機能・地域

北九州市の中央に位置し、鉄道やバスによる公共交通網が整っていることから、市内のどの地域へもアクセスが容易です。若戸大橋と若戸トンネルにより若松区とつながり、北九州都市高速道路が小倉北区へと伸びています。現在、広域道路ネットワークの形成に向け、戸畑枝光線の整備を進めています。

戸畑駅や区役所周辺には、複合公共施設「ウエルとばた」のほか、病院や介護施設、保育所、障害者支援施設などが集積し、保健、医療、子育て、福祉のネットワークが形成されています。また、公害克服を先導した戸畑区婦人会の活動が脈々と受け継がれ、住民がまちの環境を守る風土が息づいており、住みやすい生活環境が整っています。

③教育・歴史・文化



九州工業大学や5つの高校など、多くの教育機関が集積しており、学生による地域活動も活発に行われています。

九州工業大学や明治学園を創設した企業家・安川敬一郎の邸宅である旧安川邸のほか、国指定重要文化財の旧松本家住宅や北九州市立美術館など、歴史・文化施設が数多くあり、多様な文化的魅力にあふれる文教のまちとなっています。

そのほか、浅生スポーツセンターなどの施設も充実しており、趣味、教養、娯楽を満喫できるエリアが多数あります。

例年7月には、国の重要無形民俗文化財に指定されている戸畑祇園大山笠行事が開催され、20万人以上の人々が観客に訪れる夏の風物詩となっています。平成28年(2016年)にはユネスコ無形文化遺産にも登録されました。



④自然

花と緑と水辺を生かしたまちづくりを進めており、市民の憩いの場として親しまれている夜宮公園では、四季折々に美しい花々を楽しむことができます。夜宮池や日本庭園には、約7,000株の花菖蒲が植えられており、花の季節には菖蒲まつりが開催されています。



都島展望公園や中央公園の金比羅山周辺には豊かな緑が広がっているほか、天籟寺川などの貴重な水辺空間もあります。ここでは戸畑あやめや鞘ヶ谷のホタルなど、地域に生息する動植物に身近に接することができます。

(2) まちづくりの方向性

○福祉と文教のまちの価値をさらに高め、多世代に魅力ある住環境の形成を図ります。
また、学生や若者の活動支援、居場所づくりなどに取り組み、若い世代や地域が活発に交流する活力のあるまちをつくります。

○歴史でつながる旧安川邸や旧松本邸とそのゆかりの学校を中心に、多様な主体の協働により、住んでいる人や訪れる人が歴史や文化の重みを体感できるような、回遊性の高い、緑豊かな街並みを創出します。

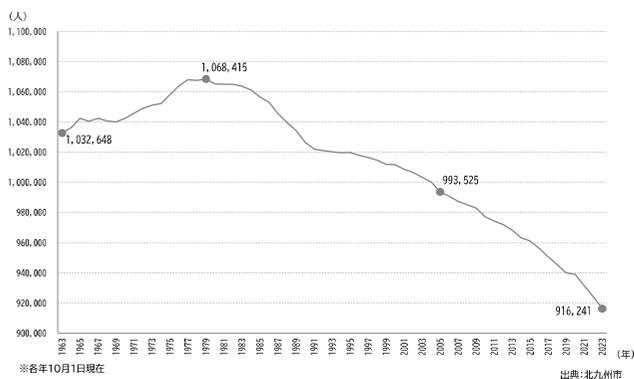
○世界に誇る戸畑祇園大山笠をはじめとする地域特有の文化や歴史、自然などを生かし、シビックプライドの醸成と賑わいの創出を図ります。

(3) 参考とした市民の皆様のご意見

- ・教育と文化をしっかり育てたまちになればよい。
- ・戸畑区はとてもコンパクトで動きやすく、教育施設がとても充実している。これは子育て世帯が住むときにとても重視すること。
- ・戸畑の良さは人が温かいまちだということだと思う。地域の力が本当に強い。
- ・九州工業大学や明治学園、夜宮公園が一連の緑になっている。これはとても大事な環境。それぞれの管理主体が話し合って、ここを結んでみんなで歩けるようにすると世界的にもアピールになる。
- ・学生が溜まれる場所がない。友達との交流の場がたくさん増えればよい。学生だけでなく、地域の人とも関われる、そんな場所があったら良い。
- ・商店街の空き店舗を使った交流の場づくりなど、高校生の力で戸畑が活性化できるような取組みをいろいろ考えている。地域の方や大人の方にも応援してほしい。

【参考】北九州市の人口の現状と将来見通し

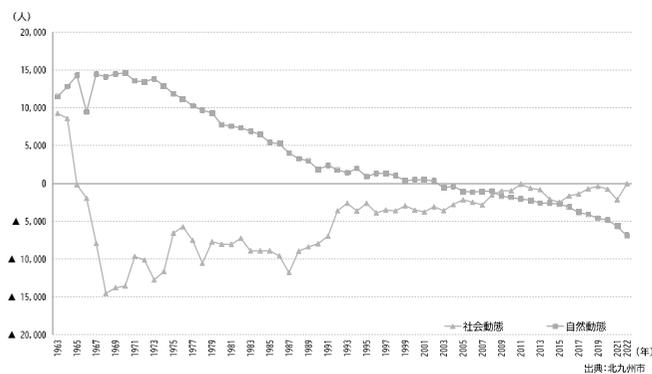
北九州市制が発足した昭和38年（1963年）に103万3千人であった人口は、昭和54年（1979年）の106万8千人をピークに、減少が続いており、平成17年（2005年）には100万人を割り、令和5年（2023年）10月現在では、91万6千人となっています。



北九州市の推計人口の推移

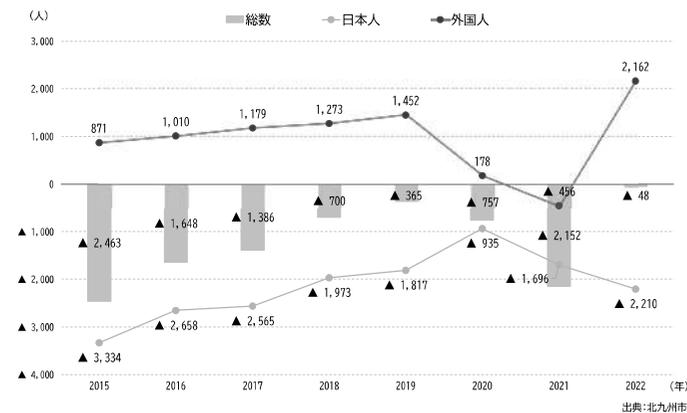
人口動態は、出生者数と死亡者数の差である「自然動態」と、転入者数と転出者数の差である「社会動態」の増減により影響を受けますが、高齢化率が政令市トップである北九州市の場合、高齢化のさらなる進展によって死亡者数が増加傾向にあり、自然動態のマイナス幅が年々拡大しています。

他方、社会動態については、過去に比べて「転出」超過のマイナス幅は改善傾向にありますが、昭和40年（1965年）以降、「転出」超過の傾向は続いています。



北九州市の自然動態と社会動態の推移

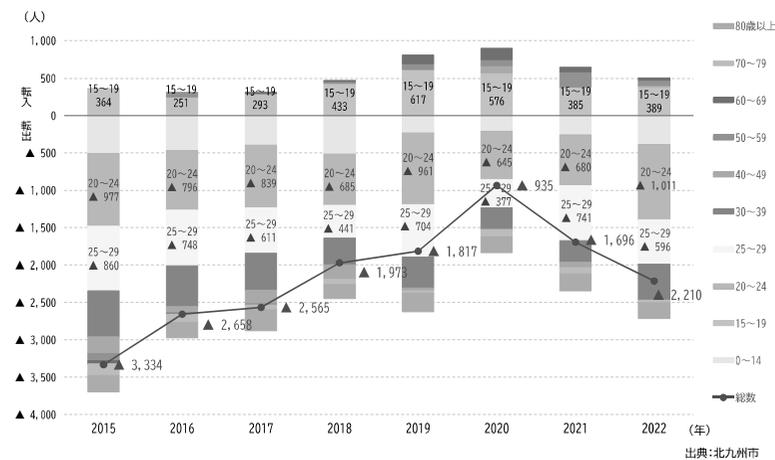
この「社会動態」について平成27年（2015年）以降の状況を見てみると、外国人は転入超過、日本人は転出超過となっています。



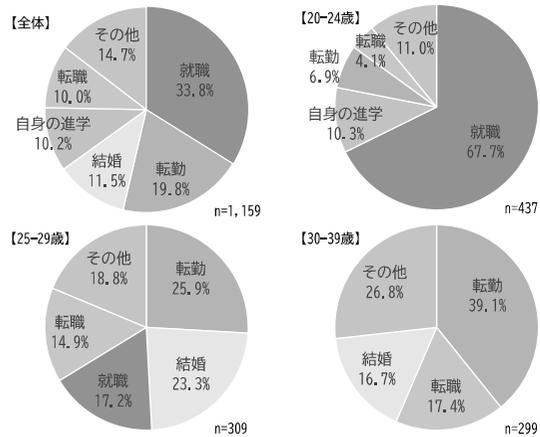
社会動態の推移（日本人・外国人）

転出超過が続く日本人の年代別の状況を見てみると、15～19歳は、北九州市内に大学などの教育機関が多く所在することから、転入超過となっています。

他方で、20～24歳、25～29歳などの年齢は、大幅な転出超過となっており、市外転出者へのアンケート結果からも就職、転勤、結婚、転職などを契機に市外に転出していることが伺えます。



年代別の社会動態の推移（日本人）

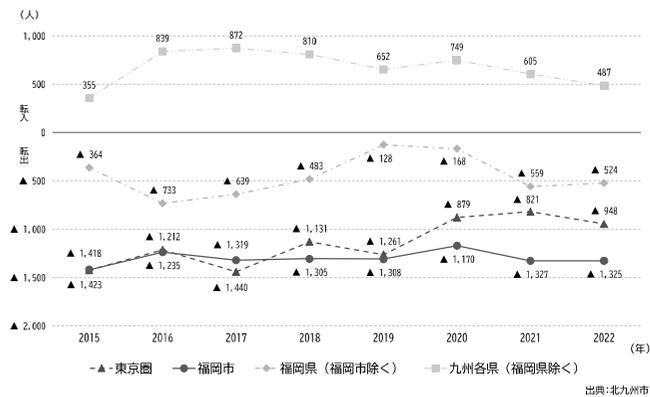


出典：北九州市「令和5年度 市外転出者（18～39歳）へのアンケート調査」

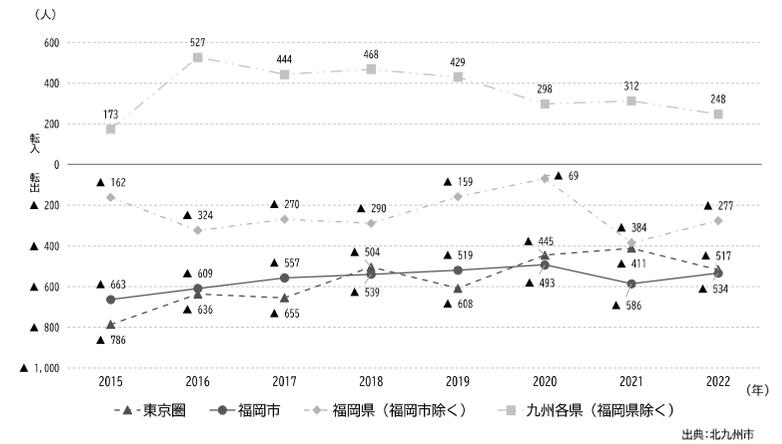
市外転出者（18～39歳）の転出のきっかけ

また、主な地域別の社会動態を見てみると、毎年の増減はあるものの、九州各県（福岡県を除く）からは、転入超過となっている一方で、福岡市、東京圏、福岡県内（福岡市を除く）には転出超過が続いています。

特に、福岡市への転出超過数は東京圏を上回っており、また、男性よりも女性の転出超過数が多くなっています。



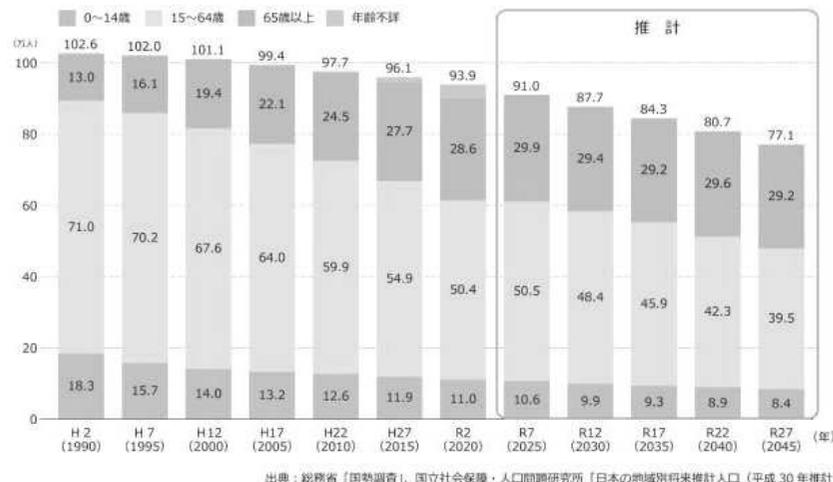
主な地域別の社会動態の推移（日本人）



主な地域別の社会動態の推移（日本人：男性）

主な地域別の社会動態の推移（日本人：女性）

こうした現状のもと、平成 27 年（2015 年）の国勢調査の結果から国立社会保障・人口問題研究所が推計した、令和 22 年（2040 年）の北九州市の人口は 80 万 7 千人、生産年齢人口（15～64 歳）は、42 万 3 千人と推計されています。



北九州市の将来推計人口

【参考】これまでいただいた主な意見

1 未来に引き継ぐ北九州市の「宝」

(1) 人と人、地域との「つながり」

- ・地理的特性から北九州市民は他所から来た人や文化を受け入れることにとっても寛容で、そのことが日本経済をけん引する原動力の一つにもなっていた。
- ・官営八幡製鐵所が操業して以降、このまちには、全国から多くの人が集まってきた。こうした多種多様な背景を持つ人々が交じり合うことが、活力やエネルギーにつながった。
- ・小倉祇園太鼓や戸畑祇園大山笠をはじめとする地域の特色ある祭りや歴史的な文化、自然の大切さを、世代間で大事に引き継いできた。
- ・市民と地域で 30 年間取り組んできた地域福祉の三層構造のネットワークは、これからもまちづくりを支えるものである。

(2) 北九州市民の「情熱」

- ・北九州市民は、一見とつきにくく見えるところはあるが、実際は人情に厚く、郷土愛（まちへの愛着）が強い。そうした気質が、困難に直面した時にみんなで一つになり、困難を乗り越える力の源になっている。
- ・産業近代化、戦後の高度成長期に国内外から多様な人々を柔軟に受け入れ、その人々の挑戦を助けたり、応援したりするパワーを持っていた。今もそのパワーは、北九州市民に根付いている。
- ・高度成長期の激甚な公害を産学官民の連携の力で克服し、その技術と経験が国内外で高く評価されて以降、北九州市は「環境のまち」として広く知られ、そのことはシビックプライドにもつながっている。

(3) ものづくり・環境のまちを支える「技術」

- ・筑豊炭田があり、石炭産業が栄えた都市で、門司港を起点として物流・人流結節点となっていた。官営八幡製鐵所をシンボルとして、産業近代化、戦後の高度成長を支えたものづくりの基盤は、これからのまちの発展に向けても、強みとして生かすべきである。
- ・産業近代化に伴う負の側面（公害）が出てきた北九州市では、世界的に環境問題への関心が高まっていなかった時代から、「ものづくりの技術」と「市民の意識」の両面からアプローチしてきた。
- ・早くから 3R（リユース、リデュース、リサイクル）といった環境問題を着想し、そのコンセプトを磨いて具体的な手を打ってきた先見性とスピード感がある。そして、環境国際協力にも、熱い思いで取り組んできた。

2 未来にチャレンジする「まちづくり」

(1) 北九州市の使命

- ・北九州市から日本を変える、世界を変えるというまちになってほしい。地域志向ではなく世界志向で、この地域が日本に、そして世界にどう貢献するのか、世界的なビジョンを持つまちになってほしい。
- ・日本全体が衰退国家になってきている今、北九州市が起爆剤になって、日本のリーダー的な役割を果たしてほしい。
- ・日本は課題先進国と言われているが、その中でも、北九州市が課題を先進的に解決していく都市を目指すことが望ましい。
- ・先進国はほぼすべて人口減少局面に入っているため、北九州市がリードし、住みやすいまちづくりを進め、都市型のモデルケースを作れば、世界に誇れるまちになる。
- ・北九州市を本気で変えていこう、発展させていこう、世界から注目されるまちにしようという一丸が求められている。行政だけでなく民間も含め、人もお金も本気も出し合えば、大きなエネルギーとなる。

(2) 稼げるまち

- ・アジアの玄関口、九州と本州との結節点という地理的優位性と、24時間利用が可能な北九州空港をはじめとする、陸・海・空の全ての輸送モードに対応した交通物流インフラをさらに生かすことが、このまちの競争力や魅力を高める。
- ・北九州市は、北九州市のことだけを考えるのではなく、近隣の福岡市や下関市などと連携し、お互いの強みと弱みをうまく補完し合えるような発展の方向を目指してほしい。
- ・スタートアップなど若い人が挑戦しやすい環境づくりや、リ・スキリングなどにより、このまちの人々の「稼げる力」を強化してほしい。
- ・性別や年齢、障害の有無、国籍を問わず、きちんとキャリアを積み、適切に評価され、しっかり働ける環境を実現してほしい。
- ・アジアの現在の課題の多くは北九州市が乗り越えてきた課題であり、少子高齢化は将来のアジアの課題であることを踏まえ、高度な外国人材を受け入れることが、アジアの活力を取り込む交流につながる。
- ・災害が少なく、豊富な水資源やエネルギーがあるこのまちは、「バックアップ都市」として、日本の非常時に対応できるポテンシャルを生かして、若者に魅力あるIT関係などの企業誘致や物流産業などの集積をさらに推進してほしい。
- ・このまちの成長は、これからの成長分野と言われている「情報」「半導体」「新エネルギー」の3分野をはじめとする関連産業をどれだけ取り込めるかにかかっている。
- ・このまちが生き残っていくには、ものづくりのまちというDNAに、DXやGX、AIなど新たな技術を組み合わせ、生産性向上や高付加価値化に取り組まなければならない。

(3) 彩りあるまち

- ・快適で魅力的な都市空間の形成には、歩行者の視点に立った「ウォークアブル」なまちづくりが重要である。また、自然と都会がコンパクトに集約されており、これらを融合させたまちづくりを推進してほしい。
- ・人々の価値観やライフスタイルが変わる中で、仕事だけでなく、文化芸術、スポーツに親しめ、上質なエンターテインメントを楽しめるような、多様な選択ができるまちであってほしい。
- ・素晴らしい観光地の本質的な魅力と価値を正しく届けることで、市内外から人を呼び込み、観光でも「稼げるまち」を目指してほしい。
- ・幼稚園から大学まで多様な選択肢があることが都市の強みである。国内外から人や企業を呼び込むには、グローバル人材やDX人材を育成する教育の提供や、インターナショナルスクールなどの誘致を検討するべきである。

(4) 安らぐまち

- ・自然災害がほとんどなく、暴力団排除により治安が改善されている。また、生活する上で、道路や水道といった社会インフラや公共交通機関が充実している。市民の暮らしのベースには、安全・安心が必要である。
- ・医療・介護の施設やサービスが充実しており、子どもから高齢者まで、また障害のある人も、安心して暮らすことができる。
- ・北九州市民すべてが、自分の尊厳を保ち、他者や社会とのつながりを感じるとともに、自身が属するコミュニティの中で幸福に暮らすことができるまちであってほしい。
- ・年齢や障害の有無に関わらず、人生を豊かに楽しめるよう、誰もが取り残されない、包摂性のある社会を目指してほしい。
- ・北九州市の健康寿命は全国平均を下回っているため、まずは健康寿命の引き上げを目標に、健康都市を前面に打ち出し、「シニアがいきいきと生活しやすいまち」を目指してほしい。
- ・フルタイム共働き世代の保育ニーズに応える環境を整え、性別を問わず、挑戦や活躍を後押しするまちであってほしい。
- ・常に子どもを真ん中において、子供たちがより伸び伸び生きることができる子どもの幸福度ナンバーワンのまちを目指してほしい。